

特定行為研修

共通科目

山梨県立大学

指導者一覽

氏名	所属／職位	
講義		
平田 修司	このはな産婦人科 理事 医師/山梨大学医学部 名誉教授	
窪川 佳世	山梨県立大学 認定看護師教育課程〈感染管理〉／特任講師	
藤原 麻由礼	山梨県立大学 認定看護師教育課程〈認知症看護〉／特任講師	
演習		
平田 修司	このはな産婦人科 理事 医師/山梨大学医学部 名誉教授	
窪川 佳世	山梨県立大学 認定看護師教育課程〈感染管理〉／特任講師	
藤原 麻由礼	山梨県立大学 認定看護師教育課程〈認知症看護〉／特任講師	
実習		
平田 修司	このはな産婦人科 理事 医師/山梨大学医学部 名誉教授	
窪川 佳世	山梨県立大学 認定看護師教育課程〈感染管理〉／特任講師	
藤原 麻由礼	山梨県立大学 認定看護師教育課程〈認知症看護〉／特任講師	

講師一覧

共通科目名	臨床病態生理学		
	学ぶべき事項	講師	講師所属
1.臨床解剖学	神経系	高尾 昌樹	埼玉医科大学国際医療センター神経内科・脳卒中内科
	循環系	薬師寺 泰匡	岸和田徳洲会病院救命救急センター医長
	血液	山崎 雅英	社会医療法人財団董仙会恵寿総合病院 診療部長・臨床検査部長・科長
	呼吸	薬師寺 泰匡	岸和田徳洲会病院救命救急センター医長
	自律神経・内分泌	田邊 真紀人	福岡大学病院 内分泌・糖尿病内科
	運動系	森井 太郎	森井整形外科病院長
	消化系	中瀬 一	北杜市立甲陽病院 副院長
	生殖(臨床生理学も含む)	村瀬 真理子	横浜市大附属市民総合医療センター生殖医療センター担当部長
	細胞・遺伝子	勝部 憲一	学校法人青淵学園東都医療大学教授
	泌尿器系	鈴木 康之	東京都リハビリテーション病院 副院長(診療部長兼務)
	免疫	勝部 憲一	学校法人青淵学園東都医療大学教授
2.臨床生理学	神経系	高尾 昌樹	埼玉医科大学国際医療センター神経内科・脳卒中内科
	循環系	薬師寺 泰匡	岸和田徳洲会病院救命救急センター医長
	呼吸	薬師寺 泰匡	岸和田徳洲会病院救命救急センター医長
	自律神経・内分泌(臨床病理学も含む)	田邊 真紀人	福岡大学病院 内分泌・糖尿病内科
	運動系	森井 太郎	森井整形外科病院長
	泌尿器系	鈴木 康之	東京都リハビリテーション病院 副院長(診療部長兼務)
	皮膚・感覚器系(1)	勝部 憲一	学校法人青淵学園東都医療大学教授
	皮膚・感覚器系(2)	勝部 憲一	学校法人青淵学園東都医療大学教授
3.臨床病理学	神経系	高尾 昌樹	埼玉医科大学国際医療センター神経内科・脳卒中内科
	循環系	薬師寺 泰匡	岸和田徳洲会病院救命救急センター医長
	血液	山崎 雅英	社会医療法人財団董仙会恵寿総合病院 診療部長・臨床検査部長・科長
	呼吸	薬師寺 泰匡	岸和田徳洲会病院救命救急センター医長
	消化系	中瀬 一	北杜市立甲陽病院 副院長
	感染	加藤 英明	横浜市立大学医学部 血液免疫感染症内科
	免疫	高橋 秀実	日本医科大学医学部 微生物学・免疫学教室 主任教授
	がん	中瀬 一	北杜市立甲陽病院 副院長
4.臨床病態生理学演習	<選択式>エネルギー	勝部 憲一	学校法人青淵学園東都医療大学教授
	<選択式>臨床病態生理学の演習	江村 正	佐賀大学医学部附属病院卒後臨床研修センター副センター長 准教授
	炎症	勝部 憲一	学校法人青淵学園東都医療大学教授

共通科目名	臨床推論		
	学ぶべき事項	講師	講師所属
1.臨床推論	症候診断の基本的な考え方	前野 哲博	筑波大学附属病院総合臨床教育センター・総合診療科
	症候論(1)頭痛	前野 哲博	筑波大学附属病院総合臨床教育センター・総合診療科
	症候論(2)めまい	前野 哲博	筑波大学附属病院総合臨床教育センター・総合診療科
	症候論(3)意識障害	前野 哲博	筑波大学附属病院総合臨床教育センター・総合診療科
	症候論(4)しびれ	前野 哲博	筑波大学附属病院総合臨床教育センター・総合診療科
	症候論(5)胸痛	前野 哲博	筑波大学附属病院総合臨床教育センター・総合診療科
	症候論(6)動悸	前野 哲博	筑波大学附属病院総合臨床教育センター・総合診療科
	症候論(7)呼吸困難	前野 哲博	筑波大学附属病院総合臨床教育センター・総合診療科
	症候論(8)腹痛	前野 哲博	筑波大学附属病院総合臨床教育センター・総合診療科
	症候論(9)嘔気	前野 哲博	筑波大学附属病院総合臨床教育センター・総合診療科
	症候論(10)腰背部痛	前野 哲博	筑波大学附属病院総合臨床教育センター・総合診療科
	症候論(11)風邪	前野 哲博	筑波大学附属病院総合臨床教育センター・総合診療科
	症候論(12)全身倦怠	前野 哲博	筑波大学附属病院総合臨床教育センター・総合診療科
	ケーススタディ(1)	前野 哲博	筑波大学附属病院総合臨床教育センター・総合診療科
	ケーススタディ(2)	前野 哲博	筑波大学附属病院総合臨床教育センター・総合診療科
	心電図	大島 一太	東京医科大学八王子医療センター 循環器内科 兼任講師
	血液検査	村上 純子	埼玉協同病院 臨床検査部長/教育研修センター長 臨床検査専門医
	尿検査	海渡 健	東京慈恵会医科大学附属病院中央 検査部 診療部長／教授
	病理検査	海渡 健	東京慈恵会医科大学附属病院中央 検査部 診療部長／教授
	微生物学検査	海渡 健	東京慈恵会医科大学附属病院中央 検査部 診療部長／教授
	生理機能検査	海渡 健	東京慈恵会医科大学附属病院中央 検査部 診療部長／教授
	その他の検査	村上 純子	埼玉協同病院 臨床検査部長/教育研修センター長 臨床検査専門医
	各種臨床検査の演習	薬師寺 泰匡	薬師寺慈恵病院／岡山大学病院
	放射線の影響	大河内 和久	自治医科大学附属さいたま医療センター講師
	単純エックス線検査／CT	大河内 和久	自治医科大学附属さいたま医療センター講師
	超音波検査・MRI	大河内 和久	自治医科大学附属さいたま医療センター講師
	CT／その他の画像検査	大河内 和久	自治医科大学附属さいたま医療センター講師
	画像検査の演習	大河内 和久	自治医科大学附属さいたま医療センター講師
	診断、検査の基本	南郷 栄秀	東京北医療センター総合診療科

	研究デザイン	南郷 栄秀	東京北医療センター総合診療科
	診断の EBM	南郷 栄秀	東京北医療センター総合診療科
	診療ガイドラインの読み方・使い方	南郷 栄秀	東京北医療センター総合診療科
	臨床疫学の演習	薬師寺 泰匡	薬師寺慈恵病院／岡山大学病院
2.臨床推論:医療 面接	コミュニケーション技法(1)	前野 哲博	筑波大学附属病院総合臨床教育センター・総合診療科
	コミュニケーション技法(2)	阪本 直人	筑波大学 医学医療系 地域医療教育学 講師
	ロールプレイをもとにした討議(1)	前野 哲博	筑波大学附属病院総合臨床教育センター・総合診療科
	ロールプレイをもとにした討議(2)	阪本 直人	筑波大学 医学医療系 地域医療教育学 講師
	実習(1) ※90 分です	前野 哲博	筑波大学附属病院総合臨床教育センター・総合診療科
	実習(2) ※90 分です	前野 哲博	筑波大学附属病院総合臨床教育センター・総合診療科
	実習(3) ※90 分です	前野 哲博	筑波大学附属病院総合臨床教育センター・総合診療科
	実習(4) ※90 分です	前野 哲博	筑波大学附属病院総合臨床教育センター・総合診療科

共通科目名	フィジカルアセスメント		
	学ぶべき事項	講師	講師所属
フィジカルアセスメント:基礎	身体診察と問診	喜瀬 守人	家庭医療学開発センター副センター長/久地診療所所長
	身体診察と診断推論	喜瀬 守人	家庭医療学開発センター副センター長/久地診療所所長
	エビデンスに基づく身体診察	喜瀬 守人	家庭医療学開発センター副センター長/久地診療所所長
	全身状態とバイタルサイン(1)	薬師寺 泰匡	薬師寺慈恵病院/岡山大学病院
	頭頸部	林田 祐彦 高橋 優二	社会医療法人 春回会井上病院 眼科 社会医療法人 春回会井上病院 内科
	胸部	薬師寺 泰匡	岸和田区徳洲会病院救命救急センター医長
	四肢・脊柱	薬師寺 泰匡	薬師寺慈恵病院/岡山大学病院
	泌尿・生殖器	鈴木 康之	東京都リハビリテーション病院 副院長(診療部長兼務)
	乳房・リンパ節	鎌田 徹	社会医療法人財団董仙会 恵寿総合病院 乳腺外科
	神経系	四本 竜一	東邦大学医療センター大森病院脳神経外科・神経内科 病棟 主任看護師
	心血管(胸部)	薬師寺 泰匡	岸和田区徳洲会病院救命救急センター医長
	腹部	後藤 順一	河北総合病院 急性・重症患者看護専門看護師
	全身状態とバイタルサイン(2)発熱	江村 正	佐賀大学医学部附属病院卒後臨床研修センター副センター長 准教授
	全身状態とバイタルサイン(2)呼吸障害	薬師寺 泰匡	岸和田区徳洲会病院救命救急センター医長
	全身状態とバイタルサイン(2)ショック	薬師寺 泰匡	薬師寺慈恵病院/岡山大学病院
	全身状態とバイタルサイン(2)意識障害	薬師寺 泰匡	岸和田区徳洲会病院救命救急センター医長
	全身状態とバイタルサイン(2)運動障害	岩瀬 弘明	山梨県立中央病院整形外科
	全身状態とバイタルサイン(2)頭痛、癌性疼痛等	田上 恵太	やまと在宅診療所 登米 緩和ケアチーム/東北大学大学院 医学系研究科 緩和医療学分野
	身体診察基本手技の演習	薬師寺 泰匡	岸和田区徳洲会病院救命救急センター医長
	部位別身体診察手技と所見の演習	薬師寺 泰匡	岸和田区徳洲会病院救命救急センター医長
フィジカルアセスメント:応用	小児(1)	児玉 和彦	児玉小児科 理事長
	小児(2)	児玉 和彦	児玉小児科 理事長
	小児(3)	児玉 和彦	児玉小児科 理事長
	小児(4)	児玉 和彦	児玉小児科 理事長
	小児(5)	児玉 和彦	児玉小児科 理事長
	小児(6)	児玉 和彦	児玉小児科 理事長
	演習(小児分野)	児玉 和彦	児玉小児科 理事長

高齢者(1)	宮本 正治	社会医療法人財団董仙会恵寿総合病院 内科
高齢者(2)	吉岡 哲也	恵寿ローレルクリニック院長
高齢者(3)	吉岡 哲也	恵寿ローレルクリニック院長
高齢者(4)	佐藤 典子	順天堂大学医学部附属 順天堂東京江東高齢者医療センター老人看護専門看護師
高齢者(5)	佐藤 典子	順天堂大学医学部附属 順天堂東京江東高齢者医療センター老人看護専門看護師
演習(高齢者分野)	吉岡 哲也	恵寿ローレルクリニック院長
救急医療(1)	薬師寺 泰匡	薬師寺慈恵病院院長/ 岡山大学病院高度救命救急センター
救急医療(2)	薬師寺 泰匡	薬師寺慈恵病院院長/ 岡山大学病院高度救命救急センター
救急医療(3)	薬師寺 泰匡	薬師寺慈恵病院院長/ 岡山大学病院高度救命救急センター
在宅医療(1)	太田 秀樹	医療法人アスミス理事長/一般社団法人 全国在宅療養支援診療所連絡会 事務局長
在宅医療(2)	鈴木 央	鈴木内科医院院長
在宅医療(3)	大澤 誠	医療法人あづま会 大井戸診療所理事長・院長
在宅医療(4)	甲斐 明美	調布東山病院摂食嚥下障害看護認定看護師/特定行為研修終了看護師
全身状態・緊急度の評価	薬師寺 泰匡	岸和田区徳洲会病院救命救急センター医長

共通科目名	臨床薬理学		
	学ぶべき事項	講師	講師所属
臨床薬理学:薬物動態	薬剤学の基礎知識(1)	大谷 道輝	杏雲堂病院 診療技術部部长/薬剂科科长
	薬剤学の基礎知識(2)	大谷 道輝	杏雲堂病院 診療技術部部长/薬剂科科长
	薬剤学の基礎知識(3)	古川 裕之	山口大学大学院医学研究科教授・医学部附属病院薬剂部部长
	薬剤学の基礎知識(4)	古川 裕之	山口大学大学院医学研究科教授・医学部附属病院薬剂部部长
	薬理学の基礎知識(1)	嶋田 修治	東京理科大学薬学部薬学科准教授
	薬理学の基礎知識(2)	嶋田 修治	東京理科大学薬学部薬学科准教授
	薬理学の基礎知識(3)	古川 裕之	山口大学大学院医学研究科教授・医学部附属病院薬剂部部长
	薬理学の基礎知識(4)	古川 裕之	山口大学大学院医学研究科教授・医学部附属病院薬剂部部长
	演習(1)	大谷 道輝	杏雲堂病院 診療技術部部长/薬剂科科长
	演習(2)	古川 裕之	山口大学大学院医学研究科教授・医学部附属病院薬剂部部长
臨床薬理学:薬理作用／臨床薬理学:薬物治療・管理	精神神経系(1)統合失調症	井手 健太	産業医科大学病院 薬剂部 精神科専門薬剂師
	精神神経系(2)認知症、パーキンソン病	井手 健太	産業医科大学病院 薬剂部 精神科専門薬剂師
	精神神経系(3)てんかん、睡眠障害	井手 健太	産業医科大学病院 薬剂部 精神科専門薬剂師
	心・血管系(1)心不全	吉国 健司	JCHO 九州病院 薬剂部 副薬剂部部长
	心・血管系(2)不整脈	吉国 健司	JCHO 九州病院 薬剂部 副薬剂部部长
	心・血管系(3)冠動脈疾患	吉国 健司	JCHO 九州病院 薬剂部 副薬剂部部长
	心・血管系(4)高血圧	柳田 俊彦	宮崎大学医学部看護学科統合臨床看護科学講座臨床薬理学教授
	呼吸器系(1)気管支喘息治療薬①	中村 裕義	国際医療福祉大学薬化学研究科教授・三田病院薬剂部部长
	呼吸器系(2)気管支喘息治療薬②	中村 裕義	国際医療福祉大学薬化学研究科教授・三田病院薬剂部部长
	呼吸器系(3)慢性閉塞性肺疾患(COPD)治療薬	中村 裕義	国際医療福祉大学薬化学研究科教授・三田病院薬剂部部长
	呼吸器系(4)咳嗽に使用される薬剂	中村 裕義	国際医療福祉大学薬化学研究科教授・三田病院薬剂部部长
	消化器系(1)上部消化器疾患	薬師寺 泰匡	薬師寺慈恵病院／岡山大学病院
	消化器系(2)炎症性腸疾患	薬師寺 泰匡	薬師寺慈恵病院／岡山大学病院
	消化器系(3)ウイルス性肝炎	薬師寺 泰匡	薬師寺慈恵病院／岡山大学病院
	消化器系(4)膵炎	薬師寺 泰匡	薬師寺慈恵病院／岡山大学病院
	内分泌・代謝系(1)経口薬療法	柳田 俊彦	宮崎大学医学部看護学科統合臨床看護科学講座臨床薬理学教授
	内分泌・代謝系(2)注射薬療法	柳田 俊彦	宮崎大学医学部看護学科統合臨床看護科学講座臨床薬理学教授
	内分泌・代謝系(3)脂質異常症の薬物療法	柳田 俊彦	宮崎大学医学部看護学科統合臨床看護科学講座臨床薬理学教授

骨・関節系(1)関節リウマチ	薬師寺 泰匡	薬師寺慈恵病院／岡山大学病院
骨・関節系(2)骨粗鬆症	薬師寺 泰匡	薬師寺慈恵病院／岡山大学病院
腎・泌尿器系(1)排尿障害	柳田 俊彦	宮崎大学医学部看護学科統合臨床看護科学講座臨床薬理学教授
腎・泌尿器系(2)慢性腎不全	柳田 俊彦	宮崎大学医学部看護学科統合臨床看護科学講座臨床薬理学教授
抗がん薬(1)	齋藤 義正	国立がん研究センター がん対策研究所がん医療支援部・中央病院薬剤部
抗がん薬(2)	齋藤 義正	国立がん研究センター がん対策研究所がん医療支援部・中央病院薬剤部
抗菌薬(1)	佐野 智望	国立がん研究センター 中央病院薬剤部 がん専門薬剤師／感染制御専門薬剤師
抗菌薬(2)	佐野 智望	国立がん研究センター 中央病院薬剤部 がん専門薬剤師／感染制御専門薬剤師
演習(1)	柳田 俊彦	宮崎大学医学部看護学科統合臨床看護科学講座臨床薬理学教授
演習(2)	中村 裕義	国際医療福祉大学薬化学研究科教授・三田病院薬剤部長
主要薬物の安全管理と処方の理論(1)エラー事例から学ぶ	池田 龍二	宮崎大学医学部附属病院 薬剤部部長
主要薬物の安全管理と処方の理論(2)エラー再発防止への取り組み	池田 龍二	宮崎大学医学部附属病院 薬剤部部長
主要薬物の安全管理と処方の理論(3)妊婦と授乳婦	柳田 俊彦	宮崎大学医学部看護学科 学科長／統合臨床看護科学講座臨床薬理学 教授
主要薬物の安全管理と処方の理論(4)小児と高齢患者、代謝・排泄臓器機能の障害患者	柳田 俊彦	宮崎大学医学部看護学科 学科長／統合臨床看護科学講座臨床薬理学 教授
主要薬物の安全管理と処方の演習	池田 龍二	宮崎大学医学部附属病院 薬剤部部長

共通科目名	疾病・臨床病態概論		
	学ぶべき事項	講師	講師所属
主要疾患の病態 と臨床診断・治療 の概論	循環器系(1)	薬師寺 泰匡	岸和田区徳洲会病院救命救急センター医長
	循環器系(2)	薬師寺 泰匡	岸和田区徳洲会病院救命救急センター医長
	呼吸器系(1)	薬師寺 泰匡	岸和田区徳洲会病院救命救急センター医長
	呼吸器系(2)	薬師寺 泰匡	岸和田区徳洲会病院救命救急センター医長
	消化器系(1)	平井 優	蕪崎市立病院外科
	消化器系(2)	平井 優	蕪崎市立病院外科
	腎泌尿器系	鈴木 康之	東京都リハビリテーション病院副院長(診療部長兼務)
	内分泌・代謝系	野見山 崇	福岡大学病院 内分泌・糖尿病内科
	免疫・膠原病系	徳田 安春	独立行政法人地域医療機能推進機構(JCHO)顧問
	血液・リンパ系	山崎 雅英	社会医療法人財団董仙会 恵寿総合病院 診療部長・臨床検査部長・科長
	神経系	徳田 安春	独立行政法人地域医療機能推進機構(JCHO)顧問
	小児科	児玉 和彦	児玉小児科 理事長
	産婦人科	新井 隆成	社会医療法人財団董仙会 恵寿総合病院 産婦人科
	精神系	佐野 信也	防衛医科大学校 医学教育部医学科教授
	運動器系	岩瀬 弘明	山梨県立中央病院整形外科
	感觉器系(1)	高橋 優二	社会医療法人 春回会井上病院 内科
	感觉器系(2)	林田 祐彦	社会医療法人 春回会井上病院 眼科
	感染症(1)	加藤 英明	横浜市立大学医学部 血液免疫感染症内科
	感染症(2)	加藤 英明	横浜市立大学医学部 血液免疫感染症内科
	その他:悪性腫瘍(1)	中瀬 一	北杜市立甲陽病院 副院長
	その他:悪性腫瘍(2)	中瀬 一	北杜市立甲陽病院 副院長
	その他:脳血管障害	川北 慎一郎	社会医療法人財団董仙会 恵寿総合病院 リハビリテーション科
	その他:急性心筋梗塞	大島 一太	東京医科大学八王子医療センター 循環器内科 兼任講師
	その他:糖尿病	岩田 実	富山大学附属病院 第一内科 診療教授
	その他:敗血症	薬師寺 泰匡	薬師寺慈恵病院/岡山大学病院
	その他:認知症	鷺見 幸彦	国立長寿医療研究センター副院長
	その他:熱中症	薬師寺 泰匡	岸和田区徳洲会病院救命救急センター医長
	演習(1)	徳田 安春	群星沖縄臨床研修センター長
	演習(2)	徳田 安春	群星沖縄臨床研修センター長

1.救急医療の臨床診断・治療の特性と演習	特性(1)	薬師寺 泰匡	岸和田区徳洲会病院救命救急センター医長
	特性(2)	薬師寺 泰匡	岸和田区徳洲会病院救命救急センター医長
	特性(3)	薬師寺 泰匡	岸和田区徳洲会病院救命救急センター医長
	救急医療の臨床診断・治療の演習	薬師寺 泰匡	岸和田区徳洲会病院救命救急センター医長
2.在宅医療の臨床診断・治療の特性と演習	特性(1)	片岡 侑史	ココロまち診療所院長
	特性(2)	片岡 侑史	ココロまち診療所院長
	特性(3)	片岡 侑史	ココロまち診療所院長
	特性(4)	西山 雅則	織田病院副理事長
	特性(5)	内田 陽子	群馬大学大学院保健学研究科医学部保健学科
	在宅医療の臨床診断・治療の演習	西山 雅則	織田病院副理事長

共通科目名	医療安全学／特定行為実践		
	学ぶべき事項	講師	講師所属
特定行為実践に関連する医療倫理	(1)生命倫理・医療倫理の原則	会田 薫子	東京大学 大学院人文社会系研究科死生学・応用倫理センター上廣講座 特任教授
	(2)生命倫理、医療倫理の各理論	一戸 真子	埼玉学園大学大学院 経営学研究科教授
	(3)特定行為と患者の権利・医療安全	松村 由美	京都大学医学部附属病院 医療安全管理部 教授
	(4)世界の患者の権利に関する諸宣言－権利・義務からパートナーシップへ	一戸 真子	埼玉学園大学大学院 経営学研究科教授
	(5)研究倫理と特定行為	日下 修一	聖徳大学看護学部 看護学科教授
	(6)医療倫理問題各論と事例検討	一戸 真子	埼玉学園大学大学院 経営学研究科教授
	(7)演習：医行為・医療ミスに関する倫理的諸問題を判例から分析する	日下 修一	聖徳大学看護学部 看護学科教授
	(8)演習：安全と医療倫理に関する事例検討：症例検討シートを活用したケース分析	一戸 真子	埼玉学園大学大学院 経営学研究科教授
	(9)特定行為実践における倫理的側面	木澤 晃代	日本看護協会常任理事
	(10)演習：臨床場面における倫理問題の検討	木澤 晃代	日本看護協会常任理事
特定行為実践に関連する医療管理	(1)特定行為における医療マネジメント	松村 由美	京都大学医学部附属病院 医療安全管理部 教授
	(2)リスクマネジメントと法規制	北野 文将	名古屋大学医学部附属病院 患者安全推進部 弁護士
	(3)特定行為における診療報酬と医療安全	日下 修一	聖徳大学看護学部 看護学科教授
特定行為実践に関連する医療安全	(1)特定行為における組織と医療安全	松村 由美	京都大学医学部附属病院 医療安全管理部 教授
	(2)特定行為における個人と医療安全	松村 由美	京都大学医学部附属病院 医療安全管理部 教授
	(3)特定行為における患者・家族と医療安全	松村 由美	京都大学医学部附属病院 医療安全管理部 教授
特定行為実践に関連するケアの質保証	(1)特定行為におけるケアの質保証～医療安全との関連	長尾 能雅	名古屋大学医学部附属病院 副院長／患者安全推進部 教授
	(2)特定行為におけるケアの質保証～医療訴訟との関連	北野 文将	名古屋大学医学部附属病院 患者安全推進部 弁護士
	(3)特定行為におけるケアの質保証～ケアと医行為との関連	竹之内 沙弥香	京都大学医学研究科人間健康学科 准教授
	(4)演習：ケアの質保証に関する判例を分析する	北野 文将	名古屋大学医学部附属病院 患者安全推進部 弁護士
	特定行為実践に関連する医療安全の実習	池田 龍二	宮崎大学医学部附属病院 薬剤部教授
特定行為研修を修了した看護師のチーム医療における役割発揮のための多職種協同実践(Inter Professional Work(IPW))(他職種との事例検討等の演習を含む)を学ぶ	チーム医療の理論～チーム医療を実践するために知っておくべきこと	山下 智幸	日本赤十字社医療センター 救急科
	チーム医療の事例検討～チームとしての最大を発揮する	山下 智幸	日本赤十字社医療センター 救急科
	チーム医療の事例検討～チームとしての最大を発揮する 演習	山下 智幸	日本赤十字社医療センター 救急科
	コンサルテーションの方法(1)	山下 智幸	日本赤十字社医療センター 救急科
	コンサルテーションの方法(2)	山下 智幸	日本赤十字社医療センター 救急科
	多職種協同の課題～多職種との円滑な協働のためのマネジメント	木澤 晃代	日本看護協会常任理事

	チーム医療の実習(1)	井上 聡己 辻本 雄大	奈良県立医科大学 集中治療部病院教授 奈良県立医科大学附属病院リソースナースセンター特 定看護師統括マネージャー
	チーム医療の実習(2)	井上 聡己 辻本 雄大	奈良県立医科大学 集中治療部病院教授 奈良県立医科大学附属病院リソースナースセンター特 定看護師統括マネージャー
	チーム医療の演習(実習の振り返り)(1)	井上 聡己 辻本 雄大	奈良県立医科大学 集中治療部病院教授 奈良県立医科大学附属病院リソースナースセンター特 定看護師統括マネージャー
	チーム医療の演習(実習の振り返り)(2)	井上 聡己 辻本 雄大	奈良県立医科大学 集中治療部病院教授 奈良県立医科大学附属病院リソースナースセンター特 定看護師統括マネージャー
特定行為実践の ための関連法規、 意思決定支援を 学ぶ	特定行為関連法規 看護師特定行為研 修の実際・モデルチェンジ	神野 正博	社会医療法人財団董仙会 恵寿総合病院 理事長
	特定行為実践に関連する患者への説明と 意思決定支援の理論	竹之内 沙弥香	京都大学医学研究科人間健康学科 准教授
	特定行為実践に関連する患者への説明と 意思決定支援の演習	竹之内 沙弥香	京都大学医学研究科人間健康学科 准教授
	特定行為実践に関連する患者への説明と 意思決定支援の実習	辻本 雄大	奈良県立医科大学附属病院リソースナースセンター特 定看護師統括マネージャー
	特定行為実践に関連する患者への説明と 意思決定支援の演習(実習の振り返り)	辻本 雄大	奈良県立医科大学附属病院リソースナースセンター特 定看護師統括マネージャー
根拠に基づいて 手順書を医師、歯 科医師等とともに 作成し、実践後、 手順書を評価し、 見直すプロセスに ついて学ぶ	手順書の位置づけ	江村 正	佐賀大学医学部附属病院卒後臨床研修センター副セン ター長 准教授
	手順書の作成演習 ペーパーシミュレー ションによる演習	江村 正	佐賀大学医学部附属病院卒後臨床研修センター副セン ター長 准教授
	手順書の評価と改良	江村 正	佐賀大学医学部附属病院卒後臨床研修センター副セン ター長 准教授
	実習1	江村 正	佐賀大学医学部附属病院卒後臨床研修センター副セン ター長 准教授
	実習2	江村 正	佐賀大学医学部附属病院卒後臨床研修センター副セン ター長 准教授
	実習3	江村 正	佐賀大学医学部附属病院卒後臨床研修センター副セン ター長 准教授

研修概要

科目名	臨床病態生理学	時間数	30 時間(実時間) 40時間(みなし時間)		
指導者	平田 修司、窪川 佳世、藤原 麻由礼				
ねらい	1) 臨床解剖学・臨床病理学・臨床生理学を学び、病態生理学的変化を判断するための知識を習得する。 2) 演習を通し、病態生理学的変化を判断するための知識を深める。				
到達目標	高度な看護実践に向けて、臨床病態(症状とメカニズム)について理解を深め、患者の身体を統合的に把握するための基礎知識を習得し、患者に対する援助方法や正常な機能へ戻すための方法について自ら考え、対策を立て、対処できる人材の育成を目標とする。				
単 元		時間	講義形態	講師	指導者
Ⅰ. 臨床解剖学					平田 窪川 藤原
1. 神経系	1	講義	高尾		
2. 循環系	1	講義	薬師寺		
3. 血液	1	講義	山崎		
4. 呼吸	1	講義	薬師寺		
5. 自律神経・内分泌	1	講義	田邊		
6. 運動系	1	講義	森井		
7. 消化系	1	講義	中瀬		
8. 生殖(臨床生理学も含む)	1	講義	村瀬		
9. 細胞・遺伝子	1	講義	勝部		
10. 泌尿器系	1	講義	鈴木		
11. 免疫	1	講義	勝部		
Ⅱ. 臨床生理学					
1. 神経系	1	講義	高尾		
2. 循環系	1	講義	薬師寺		
3. 呼吸	1	講義	薬師寺		
4. 自律神経・内分泌(臨床病理学も含む)	1	講義	田邊		
5. 運動系	1	講義	森井		
6. 泌尿器系	1	講義	鈴木		
7. 皮膚・感覚器系(1)	1	講義	勝部		
8. 皮膚・感覚器系(2)	1	講義	勝部		
Ⅲ. 臨床病理学					
1. 神経系	1	講義	高尾		
2. 循環系	1	講義	薬師寺		
3. 血液	1	講義	山崎		
4. 呼吸	1	講義	薬師寺		

5. 消化系	1	講義	中瀬	
6. 感染	1	講義	加藤	
7. 免疫	1	講義	高橋	
8. がん	1	講義	中瀬	
IV. 臨床病態生理学演習				
1. エネルギー	1	演習	勝部	
2. 炎症	1	演習	勝部	
科目修了試験		1	試験	
評価方法	講義：e ラーニングの受講及び講義確認テスト			
	演習：ペーパーシミュレーションによる演習の評価			
	試験：e ラーニング上で科目修了試験を実施			
研修内訳	講義(27 時間)	視聴時間 45 分＋講義確認テスト 15 分		
	演習(2 時間)	視聴時間(イントロ)10 分＋グループワーク 30 分＋視聴時間(解説)20 分 ※演習は e ラーニング教材を活用して指定研修機関で行う		
	試験(1 時間)	科目修了試験 60 分		
参考図書	※全日病 S-QUE 提供の講義資料をダウンロード 1. 松尾理, カラー図解症状の基礎からわかる病態生理, 第 2 版, メディカル・サイエンス・インターナショナル, 2011. 2. R.ルービンほか編, カラールービン病理学一臨床医学への基盤・改訂版, 西村出版, 2017. 3. 真鍋俊明, 外科病理診断学一原理とプラクティス, 金芳堂, 2018. 4. 小倉佳奈子, おしゃべりながんの図鑑 病理学から見たわかりやすいがんの話, CCC メディアハウス, 2019. 5. 中込さと子監修, 西垣昌和ほか編, 基礎から学ぶ遺伝看護学～「継承性」と「多様性」の看護学, 羊土社, 2019. 6. 田中竜馬, 人工呼吸に活かす! 呼吸生理がわかる、好きになる～臨床現場でのモヤモヤも解決!, 羊土社, 2013. 7. 田中竜馬, Dr.竜馬のやさしくわかる集中治療 内分泌・消化器編, 羊土社, 2017. 8. 藤城光弘, 小田一郎監修, ピロリ菌陰性時代の上部消化管内視鏡, 文光堂, 2016. 9. 日本消化器病学会関連研究会, 慢性便秘の診断・治療研究会. 慢性便秘症診療ガイドライン 2017, 南江堂, 2017. 10. 水上健, 慢性便秘症を治す本, 法研, 2018. 11. 日本消化器病学会過敏性腸症候群 (IBS) 診療ガイドライン 2014. http://www.jsge.or.jp/gudeline/guideline/pdf/IBSGL2_re.pdf , (2022.7.13.参照). 12. 菅井有, “発生部位に基づいた大腸癌の臨床病理学的,分子病理学的差異” 病理と臨床, 36(11), p.1059-1066, 2018. 13. 国立がん研究センターがん情報サービス, “最新がん統計”. がん https://ganjoho.jp/reg_stat/statistics/stat/summary.html , (2022.7.13.参照). 14. 小田正枝編, 症状別看護過程 アセスメント・看護計画がわかる, 照林社, 2014. 15. 日本消化器病学会編, NAFLD/NASH 診療ガイドライン 2014, 南江堂, 2014. 16. 日本消化器病学会編, 胆石症診療ガイドライン 2016, 改訂第 2 版, 南江堂, 2016. 17. WHO, “Hepatitis A”, WHO. https://www.who.int/news-room/fact-sheets/detail/hepatitis-a , (2022.7.13.参照) 18. WHO, “Hepatitis B”, WHO. https://www.who.int/news-room/fact-sheets/detail/hepatitis-b , (2022.7.13.参照) 19. WHO, “Hepatitis C”, WHO. https://www.who.int/news-room/fact-sheets/detail/hepatitis-c , (2022.7.13.参照). 20. WHO, “Hepatitis E”, WHO.			

参考図書	https://www.who.int/news-room/fact-sheets/detail/hepatitis-e, (2022.7.13.参照) 21. WHO Classification of Tumours Editorial Boardm, Digestive system tumours, 5th ed., World Health Organization, 2019. 22. Alastair D et al. MacSween's Pathology of the liver. 7th ed.,Elsevier, 2017. 23. Vinay Kumar et al, Robbins Basic Pathology, 10ed., Elsevier, 2017. 24. 登録・統計, 下瀬川徹編, 新臓腑病学, 南江堂. 2017. 25. 日本腎病理協会, 日本腎臓学会編, 腎生検病理アトラス.改訂版, 東京医学社,2017. 26. 長嶋洋治ほか編, 腎癌(腫瘍病理鑑別診断アトラス), 文光堂, 2013. 27. 都築豊徳編, 森永正二郎編, 腎盂尿管膀胱癌(腫瘍病理別診断アトラス), 文光堂, 2012. 28. 白石泰三, 森永正郎, 前立腺癌(腫瘍病理鑑別診断アトラス), 文光堂, 2009. 29. 三井貴彦, 武田正之, 神経と下部尿路機能ー神経因性膀胱を理解するための基礎知識, 臨床泌尿器科, 71(2).100-105, 2017.
備考	* e-ラーニングにおける講義は、各自のパソコンで、自宅等で視聴して差し支えない。 * 質問事項がある場合は、全日病 S-QUE が提供する掲示板を参照、あるいは指導者まで連絡、適宜指導を受ける。 * 指導者は、インターネットを通じて受講生の履修状況、設問の回答内容を確認し、必要に応じて指導、質疑に対する応答を行う(祝祭日を除く)。 * 1 回以上レポートの提出を行い、指導者から添削指導を受ける。レポートの内容は学修進度に応じて履修開始後、連絡される。 * 演習は、講義室に集合し、全日病 S-QUE が提供する教材に沿って行う。 * 科目修了試験(筆記試験)は、各時間終了後に行われる確認テストを参考に出題し、指導者の監督の下、本人確認を行った上で、講義室で集合して行う。 * 指導者は、必要に応じて受講者の理解を面接等で確認し、理解が不十分と判断された場合は、臨時の講義を行う。講義の場所は、講義室とする。

科目名	臨床推論	時間数	34 時間(実時間) 45時間(みなし時間)		
指導者	平田 修司、窪川 佳世、藤原 麻由礼				
ねらい	1) 症候学、臨床検査・画像検査、臨床疫学を学び、演習を通して臨床推論に必要な知識を習得する。				
到達目標	1) 主要な症候から疾患の診断ができるようになるために、知識を統合し、関連する病態生理を理解し、得られる情報を用いて論理的に推論する能力を身につける。 2) 診療プロセスのために有用な医療面接、各種臨床検査や画像検査などの検査所見から得られる情報を説明できる。				
単 元		時間	講義形態	講師	指導者
1. 症候診断の基本的な考え方		1	講義	前野	平田 窪川 藤原
2. 症候論(1)頭痛		1	講義	前野	
3. 症候論(2)めまい		1	講義	前野	
4. 症候論(3)意識障害		1	講義	前野	
5. 症候論(4)しびれ		1	講義	前野	
6. 症候論(5)胸痛		1	講義	前野	
7. 症候論(6)動悸		1	講義	前野	
8. 症候論(7)呼吸困難		1	講義	前野	
9. 症候論(8)腹痛		1	講義	前野	
10. 症候論(9)嘔気		1	講義	前野	
11. 症候論(10)腰背部痛		1	講義	前野	
12. 症候論(11)風邪		1	講義	前野	
13. 症候論(12)全身倦怠		1	講義	前野	
14. ケーススタディ(1)		1	演習	前野	
15. ケーススタディ(2)		1	演習	前野	
16. 心電図		1	講義	大島	
17. 血液検査		1	講義	村上	
18. 尿検査		1	講義	海渡	
19. 病理検査		1	講義	海渡	
20. 微生物学検査		1	講義	海渡	
21. 生理機能検査		1	講義	海渡	
22. その他の検査		1	講義	村上	
23. 各種臨床検査の演習		1	演習	薬師寺	
24. 放射線の影響		1	講義	大河内	
25. 単純エックス線検査／CT		1	講義	大河内	
26. 超音波検査・MRI		1	講義	大河内	
27. CT／その他の画像検査		1	講義	大河内	
28. 画像検査の演習		1	演習	南郷	
29. 診断、検査の基本		1	講義	南郷	

30. 研究デザイン	1	講義	南郷	
31. 診断の EBM	1	講義	南郷	
32. 診療ガイドラインの読み方・使い方	1	講義	南郷	
33. 臨床疫学の演習	1	演習	薬師寺	
科目修了試験		1	試験	
評価方法	講義：e ラーニングの受講及び講義確認テスト			
	演習：ペーパーシミュレーション(一部ロールプレイ含む)による演習の評価			
	試験:e ラーニング上で科目修了試験を実施			
研修内訳	講義(28 時間)	視聴時間 45 分＋講義確認テスト 15 分		
	演習(5 時間)	視聴時間(イントロ)5 分＋ケーススタディ{症例提示 2 分＋個人ワーク 8 分＋グループワーク 10 分＋視聴時間(解説)5 分}×2＋視聴時間(まとめ)5 分 ※演習は e-ラーニング教材を活用して指定研修機関で行う		
	試験(1 時間)	科目修了試験 60 分		
参考図書	※全日病 S-QUE 提供の講義資料をダウンロード 1. 前野哲博編, 医療職のための症状聞き方ガイド”すぐに対応すべき患者”の見極め方, 医学書院, 2019. 2. 前野哲博デキる医療者になるための症状対応 ベスト・プラクティス, 学研メディカル秀潤社, 2015. 3. 高木康, 山田俊幸, 標準臨床検査医学(第 4 版), 医学書院, 2012. 4. 河合忠, 山田俊幸, 本田孝行, 異常値の出るメカニズム(第 7 版), 医学書院, 2018. 5. 船曳知弘, 救急画像診断「超」入門 危機的所見を見抜くために, メディカル・サイエンス・インターナショナル, 2018. 6. 松本純一編, 本当は教わりたかったポータブル胸部 X 線写真の読み方 ―サクッと読めて、ガツンとわかる 7 日間特別講義―, メディカル・サイエンス・インターナショナル, 2019. 7. 林寛之編, 大西弘高編, イナダ(研修医)も学べばブリ(指導医)になる:現場のプロと臨床推論のプロが教える診断能力アップ術, 南山堂, 2017. 8. 大西弘高, 尾藤修司監修, 価値に基づく診療:VBP 実践のための 10 のプロセス, メディカルサイエンスインターナショナル, 2016. 9. 伊藤敬介編, 大西弘高編, ナースのための臨床推論で身につく院内トリアージ:最速・最強の緊急度アセスメント, 学研プラス, 2016.			
備考	*e-ラーニングにおける講義は、各自のパソコンで、自宅等で視聴して差し支えない。 *質問事項がある場合は、全日病 S-QUE が提供する掲示板を参照、あるいは指導者まで連絡、適宜指導を受ける。 *指導者は、インターネットを通じて受講生の履修状況、設問の回答内容を確認し、必要に応じて指導、質疑に対する応答を行う(祝祭日を除く)。 *1 回以上レポートの提出を行い、指導者から添削指導を受ける。レポートの内容は学修進度に応じて履修開始後、連絡される。 *演習は、講義室に集合し、全日病 S-QUE が提供する教材に沿って行う。 *科目修了試験(筆記試験)は、各時間終了後に行われる確認テストを参考に出題し、指導者の監督の下、本人確認を行った上で、講義室で集合して行う。 *指導者は、必要に応じて受講者の理解を面接等で確認し、理解が不十分と判断された場合は、臨時の講義を行う。講義の場所は、講義室とする。			

科目名	臨床推論：医療面接		時間数	11 時間(実時間) 15時間(みなし時間)	
指導者	平田 修司、窪川 佳世、藤原 麻由礼				
ねらい	1) 医療面接の理論と演習・実習を通して、症状の変化に対応し、身体所見・検査所見から病態を把握する臨床推論のプロセスを理解する。				
到達目標	各種臨床検査、画像検査を受ける対象者や家族に必要な支援ができる。				
単 元		時間	講義形態	講師	指導者
1. コミュニケーション技法(1)		1	講義	前野	平田 窪川 藤原
2. コミュニケーション技法(2)		1	講義	阪本	
3. 医療面接の演習(1)		1	演習	前野	
4. 医療面接の演習(2)		1	演習	阪本	
5. 実習(1) ※90 分		1.5	実習	前野	
6. 実習(2) ※90 分		1.5	実習	前野	
7. 実習(3) ※90 分		1.5	実習	前野	
8. 実習(4) ※90 分		1.5	実習	前野	
科目修了試験		1	試験		
評価方法	講義:e ラーニングの受講及び講義確認テスト				
	演習:ペーパーシミュレーション(一部ロールプレイ含む)による演習の評価				
	実習:ロールプレイによる実習の観察評価				
	試験:e ラーニング上で科目修了試験を実施				
研修内訳	講義(2 時間)	視聴時間 45 分＋講義確認テスト 15 分			
	演習(2 時間)	視聴時間(イントロ)5 分＋ケーススタディ[症例提示 2 分＋個人ワーク 8 分＋グループワーク 10 分＋視聴時間(解説)5 分]×2＋視聴時間 (まとめ) 5 分 ※演習は e ラーニング教材を活用して指定研修機関で行う			
	実習(6 時間)	実習は指定研修機関で、ロールプレイによる実習の観察評価を行う			
	試験(1 時間)	科目修了試験 60 分			
参考図書	※全日病 S-QUE 提供の講義資料をダウンロード 1. 前野哲博編, 医療職のための症状聞き方ガイド”すぐに対応すべき患者”の見極め方, 医学書院, 2019. 2. 前野哲博 デキる医療者になるための症状対応ベスト・プラクティス, 学研メディカル秀潤社, 2015. 3. 林寛之編, 大西弘高編, イナダ(研修医)も学べばプリ(指導医)になる:現場のプロと臨床推論のプロが教える診断能力アップ術, 南山堂, 2017. 4. 伊藤敬介編, 大西弘高編, ナースのための臨床推論で身につく院内トリアージ:最速・最強の緊急度アセスメント, 学研プラス, 2016.				

備考	* e-ラーニングにおける講義は、各自のパソコンで、自宅等で視聴して差し支えない。 * 質問事項がある場合は、全日病 S-QUE が提供する掲示板を参照、あるいは指導者まで連絡、適宜指導を受ける。 * 指導者は、インターネットを通じて受講生の履修状況、設問の回答内容を確認し、必要に応じて指導、質疑に対する応答を行う(祝祭日を除く)。 * 1 回以上レポートの提出を行い、指導者から添削指導を受ける。レポートの内容は学修進度に応じて履修開始後、連絡される。 * 演習は、講義室に集合し、全日病 S-QUE が提供する教材に沿って行う。 * 科目修了試験(筆記試験)は、各時間終了後に行われる確認テストを参考に出題し、指導者の監督の下、本人確認を行った上で、講義室で集合して行う。 * 指導者は、必要に応じて受講者の理解を面接等で確認し、理解が不十分と判断された場合は、臨時の講義を行う。講義の場所は、講義室とする。
備考	

科目名	フィジカルアセスメント:基礎		時間数	23 時間(実時間) 30時間(みなし時間)	
指導者	平田 修司、窪川 佳世、藤原 麻由礼				
ねらい	1) 身体診察の基本手技を理解し、実践できる。				
到達目標	1) 日常的にみられる病態を系統的に理解し、より高度な看護実践に向け、病態生理学的状態をエビデンスに基づき判断できる知識・技術を身につける。 2) 多様な臨床場面における重要な病態の変化や症状をいち早くアセスメントできる基本的な知識を身につける。				
単 元		時間	講義形態	講師	指導者
1. 身体診察と問診		1	講義	喜瀬	平田 窪川 藤原
2. 身体診察と診断推論		1	講義	喜瀬	
3. エビデンスに基づく身体診察		1	講義	喜瀬	
4. 全身状態とバイタルサイン(1)		1	講義	薬師寺	
5. 頭頸部		1	講義	林田・高橋	
6. 胸部		1	講義	薬師寺	
7. 四肢・脊柱		1	講義	薬師寺	
8. 泌尿・生殖器		1	講義	鈴木	
9. 乳房・リンパ節		1	講義	鎌田	
10. 神経系		1	講義	四本	
11. 心血管(胸部)		1	講義	薬師寺	
12. 腹部		1	講義	後藤	
13. 全身状態とバイタルサイン(2)発熱		1	講義	江村	
14. 全身状態とバイタルサイン(2)呼吸障害		1	講義	薬師寺	
15. 全身状態とバイタルサイン(2)ショック		1	講義	薬師寺	
16. 全身状態とバイタルサイン(2)意識障害		1	講義	薬師寺	
17. 全身状態とバイタルサイン(2)運動障害		1	講義	岩瀬	
18. 全身状態とバイタルサイン(2)頭痛、癌性疼痛等		1	講義	田上	
19. 身体診察基本手技の演習		1	演習	薬師寺	
20. 部位別身体診察手技と所見の演習		1	演習	薬師寺	
21. 身体診察基本手技の実習		1	実習	薬師寺	
22. 部位別身体診察手技と所見の実習		1	実習	薬師寺	
科目修了試験		1	試験		
評価方法	講義:e-ラーニングの受講及び講義確認テスト				
	演習:ペーパーシミュレーションによる演習の評価				
	実習:ロールプレイによる実習の観察評価				
	試験:e-ラーニング上で科目修了試験を実施				
研修内訳	講義(18 時間)	視聴時間 45 分 + 講義確認テスト 15 分			

	演習(2 時間)	視聴時間(イントロ)10 分+グループワーク 30 分+視聴時間(解説)20 分 ※演習は e-ラーニング教材を活用して指定研修機関で行う。
	実習(2 時間)	実習は指定研修機関で行う。 ロールプレイによる実習の観察評価を行う。
	試験(1 時間)	科目修了試験 60 分
参考図書	※全日病 S-QUE 提供の講義資料をダウンロード 1. 医療情報科学研究所編, 看護がみえる vol.3 フィジカルアセスメント, メディックメディア, 2019. 2. Steven McGee, マクギーのフィジカル診断学 原著第 4 版, 診断と治療社, 2019. 3. 須藤 博ほか訳, サパイラ 身体診察のアートとサイエンス 第 2 版, 医学書院, 2019. 4. Mark Dennis et al, 身体所見のメカニズムー A to Z ハンドブック, 丸善出版, 2019. 5. 福井次矢ほか監修, バイツ診察法第 2 版, メディカルサイエンスインターナショナル, 2015. 6. 徳田安春, 病歴と身体所見の診断学:検査なしでここまでわかる, 医学書院, 2017. 7. 徳田安春, Dr.徳田のフィジカル診断新講座, 日本医事新報社, 2014. 8. 徳田安春, こんなとき、フィジカル:超実践的! 身体診察のアプローチ, 金原出版, 2015. 9. 徳田安春, こんなとき、フィジカル 2: 超実践的! 身体診察のアプローチ, 金原出版, 2016. 10. 武田裕子編, 看護師特定行為研修共通科目テキストブック:フィジカルアセスメント, メディカルレビュー社, 2019. 11. 平島修ほか編, 身体診察 免許皆伝: 目的別フィジカルを取り方 伝授します, 医学書院, 2017. 12. 上田剛士, 高齢者診療で身体診察を強力な武器にするためのエビデンス, シーニュ, 2014. 13. 森川暢, フレーム法で、もうコワくない総合内科 ただいま診断中! 中外医学社, 2018.	
備考	* e-ラーニングにおける講義は、各自のパソコンで、自宅等で視聴して差し支えない。 * 質問事項がある場合は、全日病 S-QUE が提供する掲示板を参照、あるいは指導者まで連絡、適宜指導を受ける。 * 指導者は、インターネットを通じて受講生の履修状況、設問の回答内容を確認し、必要に応じて指導、質疑に対する応答を行う(祝祭日を除く)。 * 1 回以上レポートの提出を行い、指導者から添削指導を受ける。レポートの内容は学修進度に応じて履修開始後、連絡される。 * 演習は、講義室に集合し、全日病 S-QUE が提供する教材に沿って行う。 * 科目修了試験(筆記試験)は、各時間終了後に行われる確認テストを参考に出題し、指導者の監督の下、本人確認を行った上で、講義室で集合して行う。 * 指導者は、必要に応じて受講者の理解を面接等で確認し、理解が不十分と判断された場合は、臨時の講義を行う。講義の場所は、講義室とする。	

科目名	フィジカルアセスメント：応用	時間数	22 時間(実時間) 30時間(みなし時間)		
指導者	平田 修司、窪川 佳世、藤原 麻由礼				
ねらい	1) 小児・高齢者の特徴をとらえたフィジカルアセスメントを理解し、実践できる。 2) 救急医療・在宅医療等の状況に応じたフィジカルアセスメントを理解し、実践できる。				
到達目標	1) フィジカルアセスメントを活用し、症例に関する適切な情報収集・分析ができる。 2) 病歴や身体所見などの情報を統合してアセスメントができ、今後必要となる処置や検査の予測ができる。				
単 元		時間	講義形態	講師	指導者
1. 小児(1)		1	講義	児玉	平田 窪川 藤原
2. 小児(2)		1	講義	児玉	
3. 小児(3)		1	講義	児玉	
4. 小児(4)		1	講義	児玉	
5. 小児(5)		1	講義	児玉	
6. 小児(6)		1	講義	児玉	
7. 演習(小児分野)		1	演習	児玉	
8. 高齢者(1)		1	講義	宮本	
9. 高齢者(2)		1	講義	吉岡	
10. 高齢者(3)		1	講義	吉岡	
11. 高齢者(4)		1	講義	佐藤	
12. 高齢者(5)		1	講義	佐藤	
13. 演習(高齢者分野)		1	演習	吉岡	
14. 救急医療(1)		1	講義	薬師寺	
15. 救急医療(2)		1	講義	薬師寺	
16. 救急医療(3)		1	講義	薬師寺	
17. 在宅医療(1)		1	講義	太田	
18. 在宅医療(2)		1	講義	鈴木	
19. 在宅医療(3)		1	講義	大澤	
20. 在宅医療(4)		1	講義	甲斐	
21. 全身状態・緊急度の評価		1	演習	薬師寺	
科目修了試験		1	試験		
評価方法	講義：e-ラーニングの受講及び講義確認テスト				
	演習：ペーパーシミュレーションによる演習の評価				
	試験：e-ラーニング上で科目修了試験を実施				

研修内訳	講義(18 時間)	視聴時間 45 分＋講義確認テスト 15 分
	演習(3 時間)	視聴時間(イントロ)10 分＋グループワーク 30 分＋視聴時間(解説)20 分 ※演習は e-ラーニング教材を活用して指定研修機関で行う
	試験(1 時間)	科目修了試験 60 分
参考図書	※全日病 S-QUE 提供の講義資料をダウンロード 1. 医療情報科学研究所編, 看護がみえる vol.3 フィジカルアセスメント, メディックメディア, 2019. 2. Steven McGee, マクギーのフィジカル診断学 原著第 4 版, 診断と治療社, 2019. 3. 須藤 博ほか訳, サバイラ 身体診察のアートとサイエンス第 2 版, 医学書院, 2019. 4. Mark Dennis et al, 身体所見のメカニズム-A to Z ハンドブック.原書 2 版, 丸善出版, 2019. 5. 福井次矢ほか監修, ベイツ診察法第 2 版, メディカルサイエンスインターナショナル, 2015. 6. 徳田安春, 病歴と身体所見の診断学:検査なしでここまでわかる, 医学書院, 2017. 7. 徳田安春, Dr.徳田のフィジカル診断講座, 日本医事新報社, 2014. 8. 徳田安春, こんなとき、フィジカル:超実践的! 身体診察のアプローチ, 金原出版, 2015. 9. 徳田安春, こんなとき、フィジカル 2:超実践的! 身体診察のアプローチ, 金原出版, 2016. 10. 武田裕子編, 看護師特定行為研修共通科目テキストブック:フィジカルアセスメント・メディカルレビュー社, 2019. 11. 平島修ほか編, 身体診察 免許皆伝:目的別フィジカルを取り方 伝授します, 医学書院, 2017. 12. 福井次矢ほか監修, ベイツ診察法第 2 版, メディカルサイエンスインターナショナル, 2015. 13. 徳田安春, 病歴と身体所見の診断学:検査なしでここまでわかる, 医学書院, 2017. 14. 徳田安春, Dr.徳田のフィジカル診断講座, 日本医事新報社, 2014. 15. 徳田安春, こんなとき、フィジカル:超実践的! 身体診察のアプローチ, 金原出版, 2015. 16. 徳田安春, こんなとき、フィジカル 2:超実践的! 身体診察のアプローチ, 金原出版, 2016. 17. 崎山弘編, 本田雅敬.帰してはいけない小児外来患者, 医学書院, 2015. 18. 東京都立小児総合医療センター編, 帰してはいけない小児外来患者 2 子どもの症状別診断へのアプローチ, 医学書院, 2018. 19. 一般社団法人日本小児アレルギー学会, 小児気管支喘息治療・管理ガイドライン 2017《2019 年改訂版》, 協和企画, 2019. 20. 日本小児神経学会監修, 熱性けいれん診療ガイドライン 2015, 診断と治療社, 2015. 21. 日本川崎病学会“川崎病関連情報”, 日本川崎病学会. http://www.jskd.jp/info/index.html, (2022.7.13.参照). 22. 公益社団法人日本小児科学会.”子ども虐待診療の手引き”. 公益社団法人日本小児科学会. https://www.jpeds.or.jp/modules/guidelines/index.php?content_id=25, (2022.7.13 参照). 23. 上田剛士. 高齢者診療で身体診察を強力な武器にするためのエビデンス, シーニュ, 2014. 24. 野口善令, 福原俊一、誰も教えてくれなかった診断学一患者の言葉から診断仮説をどう作るか, 医学書院, 2008. 25. 上田剛士, ジェネラリストのための内科診断リファレンス:エビデンスに基づく究極の診断学をめざして, 医学書院, 2014. 26. 山中克郎ほか, UCSF に学ぶできる内科医への近道, 南山堂, 2012. 27. 室生卓, General Physician 循環器診察力腕試しー達人の極意, マスター!金芳堂, 2012. 28. William Silen. 小関一英訳, 急性腹症の早期診断-病歴と身体所見による診断技能をみがく.第 2 版, メディカルサイエンスインターナショナル, 2012. 29. 青木眞, レジデントのための感染症マニュアル.第 3 版, 医学書院, 2015. 30. Mervin Singer et al. The Third International Consensus Definitions for Sepsis and Septic Shock(Sepsis-3). JAMA. 2016, 315(8), p.801-810. 31. J. Larry Jameson, Harrison's principles of internal medicine, 20th ed., 2018. 32. BRIAN A. CASAZZA, Diagnosis and treatment of acute low back pain, AFP, 2012, 85(4) p.343-350. 33. Eric Klineberg et al.Masquarade: Medical causes of back pain, Cleveland	

	clinic journal of medicine, 2007, 74(12), p.905-913.
備考	* e-ラーニングにおける講義は、各自のパソコンで、自宅等で視聴して差し支えない。 * 質問事項がある場合は、全日病 S-QUE が提供する掲示板を参照、あるいは指導者まで連絡、適宜指導を受ける。 * 指導者は、インターネットを通じて受講生の履修状況、設問の回答内容を確認し、必要に応じて指導、質疑に対する応答を行う(祝祭日を除く)。 * 1回以上レポートの提出を行い、指導者から添削指導を受ける。レポートの内容は学修進度に応じて履修開始後、連絡される。 * 演習は、講義室に集合し、全日病 S-QUE が提供する教材に沿って行う。 * 科目修了試験(筆記試験)は、各時間終了後に行われる確認テストを参考に出題し、指導者の監督の下、本人確認を行った上で、講義室で集合して行う。 * 指導者は、必要に応じて受講者の理解を面接等で確認し、理解が不十分と判断された場合は、臨時の講義を行う。講義の場所は、講義室とする。

科目名	臨床薬理学:薬物動態		時間数	11 時間(実時間) 15時間(みなし時間)	
指導者	平田 修司、窪川 佳世、藤原 麻由礼				
ねらい	1)安全確実な薬剤投与を行うため、薬物動態について理解する。				
到達目標	1)薬剤学・薬理学の基礎知識を深め、薬物投与の基本概念を理解できる。 2)薬物の作用機序、生体内動態、及び薬理作用と副作用の関係を説明できる。				
単 元		時間	講義形態	講師	指導者
1. 薬剤学の基礎知識(1)		1	講義	大谷	平田 窪川 藤原
2. 薬剤学の基礎知識(2)		1	講義	大谷	
3. 薬剤学の基礎知識(3)		1	講義	古川	
4. 薬剤学の基礎知識(4)		1	講義	古川	
5. 薬理学の基礎知識(1)		1	講義	嶋田	
6. 薬理学の基礎知識(2)		1	講義	嶋田	
7. 薬理学の基礎知識(3)		1	講義	古川	
8. 薬理学の基礎知識(4)		1	講義	古川	
9. 演習(1)		1	演習	大谷	
10. 演習(2)		1	演習	古川	
科目修了試験		1	試験		
評価方法	講義:e-ラーニングの受講及び講義確認テスト				
	演習:ペーパーシミュレーションによる演習の評価				
	試験:e-ラーニング上で科目修了試験を実施				
研修内訳	講義(8 時間)	視聴時間 45 分+講義確認テスト 15 分			
	演習(2 時間)	視聴時間(イントロ)10 分+グループワーク 30 分+視聴時間(解説)20 分 ※演習は e-ラーニング教材を活用して指定研修機関で行う			
	試験(1 時間)	科目修了試験 60 分			
参考図書	※全日病 S-QUE 提供の講義資料をダウンロード 1. 医療情報科学研究所編, 薬がみえる vol.1 メディックメディア, 2014. 2. 医療情報科学研究所編, 薬がみえる vol.2 メディックメディア, 2015. 3. 医療情報科学研究所編, 薬がみえる vol.3 メディックメディア, 2016. 4. 笹栗俊之編, 宮田篤郎編, ベッドサイドの薬理学, 丸善出版, 2018. 5. 橋京一ほか編, 疾患からみた臨床薬理学.第 3 版, じほう, 2012. 6. 笹栗俊之, 患者さんと医療系学生のための臨床薬理学入門, 九州大学出版. 7. 愛媛大学医学部附属病院薬剤部, 病棟でよく使われる「くすり」照林社, 2018. 8. 渡邊裕司ほか, 治療薬の臨床薬理データブック, 日本医事新報社, 2018. 9. 伊藤真也編, 村島温子編, 薬物治療コンサルテーション 妊娠と授乳, 改訂 2 版, 南山堂, 2014.				

備考	* e-ラーニングにおける講義は、各自のパソコンで、自宅等で視聴して差し支えない。 * 質問事項がある場合は、全日病 S-QUE が提供する掲示板を参照、あるいは指導者まで連絡、適宜指導を受ける。 * 指導者は、インターネットを通じて受講生の履修状況、設問の回答内容を確認し、必要に応じて指導、質疑に対する応答を行う(祝祭日を除く)。 * 1 回以上レポートの提出を行い、指導者から添削指導を受ける。レポートの内容は学修進度に応じて履修開始後、連絡される。 * 演習は、講義室に集合し、全日病 S-QUE が提供する教材に沿って行う。 * 科目修了試験(筆記試験)は、各時間終了後に行われる確認テストを参考に出題し、指導者の監督の下、本人確認を行った上で、講義室で集合して行う。 * 指導者は、必要に応じて受講者の理解を面接等で確認し、理解が不十分と判断された場合は、臨時の講義を行う。講義の場所は、講義室とする。
----	---

科目名	臨床薬理学:薬理作用／臨床薬理学:薬物治療・管理	時間数	34 時間(実時間) 45時間(みなし時間)		
指導者	平田 修司、窪川 佳世、藤原 麻由礼				
ねらい	1) 安全確実な薬剤投与を行うため、薬物動態を踏まえた薬物の作用機序と、主要薬物の薬理作用・副作用について理解する。 2) 安全確実な薬剤投与・管理を行うため、主要薬物の相互作用、主要薬物の安全管理処方について理解する。				
到達目標	1) 各種疾病の基本的な病態生理を考慮した上で、薬理学的根拠に基づいた適切な治療薬物の効果的な使用方法を検討できる。 2) 主要薬物の安全管理と処方の理論を理解できる。				
単 元		時間	講義形態	講師	指導者
1.	精神神経系(1)統合失調症	1	講義	井手	
2.	精神神経系(2)認知症、パーキンソン病	1	講義	井手	
3.	精神神経系(3)てんかん、睡眠障害	1	講義	井手	
4.	心・血管系(1)心不全	1	講義	吉国	
5.	心・血管系(2)不整脈	1	講義	吉国	
6.	心・血管系(3)冠動脈疾患	1	講義	吉国	
7.	心・血管系(4)高血圧	1	講義	柳田	
8.	呼吸器系(1)気管支喘息治療薬①	1	講義	中村	
9.	呼吸器系(2)気管支喘息治療薬②	1	講義	中村	
10.	呼吸器系(3)慢性閉塞性肺疾患(COPD)治療薬	1	講義	中村	
11.	呼吸器系(4)咳嗽に使用される薬剤	1	講義	中村	平田 窪川 藤原
12.	消化器系(1)上部消化器疾患	1	講義	薬師寺	
13.	消化器系(2)炎症性腸疾患	1	講義	薬師寺	
14.	消化器系(3)ウイルス性肝炎	1	講義	薬師寺	
15.	消化器系(4)膵炎	1	講義	薬師寺	
16.	内分泌・代謝系(1)経口薬療法	1	講義	柳田	
17.	内分泌・代謝系(2)注射薬療法	1	講義	柳田	
18.	内分泌・代謝系(3)脂質異常症の薬物療法	1	講義	柳田	
19.	骨・関節系(1)関節リウマチ	1	講義	薬師寺	
20.	骨・関節系(2)骨粗鬆症	1	講義	薬師寺	
21.	腎・泌尿器系(1)排尿障害	1	講義	柳田	
22.	腎・泌尿器系(2)慢性腎不全	1	講義	柳田	
23.	抗がん薬(1)	1	講義	齋藤	
24.	抗がん薬(2)	1	講義	齋藤	
25.	抗菌薬(1)	1	講義	佐野	
26.	抗菌薬(2)	1	講義	佐野	

27.	演習(1)	1	演習	柳田	
28.	演習(2)	1	演習	中村	
29.	主要薬物の安全管理と処方の理論(1)エラー事例から学ぶ	1	講義	池田	
30.	主要薬物の安全管理と処方の理論(2)エラー再発防止への取り組み	1	講義	池田	
31.	主要薬物の安全管理と処方の理論(3)妊婦と授乳婦	1	講義	柳田	
32.	主要薬物の安全管理と処方の理論(4)小児と高齢患者、代謝・排泄臓器機能の障害患者	1	講義	柳田	
33.	主要薬物の安全管理と処方の演習	1	演習	池田	
科目修了試験		1	試験		
評価方法	講義:e-ラーニングの受講及び講義確認テスト				
	演習:ペーパーシミュレーションによる演習の評価				
	試験:e-ラーニング上で科目修了試験を実施				
研修内訳	講義(30 時間)	視聴時間 45 分 + 講義確認テスト 15 分			
	演習(3 時間)	視聴時間(イントロ)10 分 + グループワーク 30 分 + 視聴時間(解説)20 分 ※演習は e-ラーニング教材を活用して指定研修機関で行う			
	試験(1 時間)	科目修了試験 60 分			
参考図書	※全日病 S-QUE 提供の講義資料をダウンロード 1. 医療情報科学研究所編, 薬がみえる vol.1 メディックメディア, 2014. 2. 医療情報科学研究所編, 薬がみえる vol.2 メディックメディア, 2015. 3. 医療情報科学研究所編, 薬がみえる vol.3 メディックメディア, 2016.				
備考	* e-ラーニングにおける講義は、各自のパソコンで、自宅等で視聴して差し支えない。 * 質問事項がある場合は、全日病 S-QUE が提供する掲示板を参照、あるいは指導者まで連絡、適宜指導を受ける。 * 指導者は、インターネットを通じて受講生の履修状況、設問の回答内容を確認し、必要に応じて指導、質疑に対する応答を行う(祝祭日を除く)。 * 1 回以上レポートの提出を行い、指導者から添削指導を受ける。レポートの内容は学修進度に応じて履修開始後、連絡される。 * 演習は、講義室に集合し、全日病 S-QUE が提供する教材に沿って行う。 * 科目修了試験(筆記試験)は、各時間終了後に行われる確認テストを参考に出題し、指導者の監督の下、本人確認を行った上で、講義室で集合して行う。 * 指導者は、必要に応じて受講者の理解を面接等で確認し、理解が不十分と判断された場合は、臨時の講義を行う。講義の場所は、講義室とする。				

科目名	疾病・臨床病態概論	時間数	30 時間(実時間) 40時間(みなし時間)		
指導者	平田 修司、窪川 佳世、藤原 麻由礼				
ねらい	1)主要疾患の病態と臨床診断・治療を理解する。				
到達目標	1)頻度の高い主要疾患の診断・治療を理解する。				
単 元		時間	講義形態	講師	指導者
1.	循環器系(1)	1	講義	薬師寺	平田 窪川 藤原
2.	循環器系(2)	1	講義	薬師寺	
3.	呼吸器系(1)	1	講義	薬師寺	
4.	呼吸器系(2)	1	講義	薬師寺	
5.	消化器系(1)	1	講義	平井	
6.	消化器系(2)	1	講義	平井	
7.	腎泌尿器系	1	講義	鈴木	
8.	内分泌・代謝系	1	講義	野見山	
9.	免疫・膠原病系	1	講義	徳田	
10.	血液・リンパ系	1	講義	山崎	
11.	神経系	1	講義	徳田	
12.	小児科	1	講義	児玉	
13.	産婦人科	1	講義	新井	
14.	精神系	1	講義	佐野	
15.	運動器系	1	講義	岩瀬	
16.	感覚器系(1)	1	講義	高橋	
17.	感覚器系(2)	1	講義	林田	
18.	感染症(1)	1	講義	加藤	
19.	感染症(2)	1	講義	加藤	
20.	その他:悪性腫瘍(1)	1	講義	中瀬	
21.	その他:悪性腫瘍(2)	1	講義	中瀬	
22.	その他:脳血管障害	1	講義	川北	
23.	その他:急性心筋梗塞	1	講義	大島	
24.	その他:糖尿病	1	講義	岩田	
25.	その他:敗血症	1	講義	薬師寺	
26.	その他:認知症	1	講義	鷲見	
27.	その他:熱中症	1	講義	薬師寺	
28.	演習(1)	1	演習	徳田	
29.	演習(2)	1	演習	徳田	
科目修了試験		1	試験		

評価方法	講義:e-ラーニングの受講及び講義確認テスト	
	演習:ペーパーシミュレーションによる演習の評価	
	試験:e-ラーニング上で科目修了試験を実施	
研修内訳	講義(27 時間)	視聴時間 45 分+講義確認テスト 15 分
	演習(2 時間)	視聴時間(イントロ)10 分+グループワーク 30 分+視聴時間(解説)20 分 ※演習は e-ラーニング教材を活用して指定研修機関で行う
	試験(1 時間)	科目修了試験 60 分
参考図書	※全日病 S-QUE 提供の講義資料をダウンロード 《呼吸器系》 1. 長尾大志, まるごと図解 呼吸の見かた, 照林社, 2016. 2. 長尾大志, レジデントのためのやさしい呼吸器教室.第 3 版, 日本医事新報社, 2019. 3. 伊達洋至, 平井豊博監修, 最新 呼吸器内科・外科学. メディカルレビュー社, 2019. 《内分泌・代謝系》 4. 日本糖尿病学会, 糖尿病治療ガイド 2018-2019, 文光堂, 2018. 5. 日本糖尿病学会, 糖尿病診療ガイドライン 2019, 南江堂, 2019. 6. 日本糖尿病学会, 日本老年医学会, 高齢者糖尿病治療ガイド 2018, 文光堂, 2018. 7. 日本糖尿病学会, 糖尿病専門医研修ガイドブック.改訂第 7 版, 診断と治療社, 2017. 8. 日本内分泌学会, 内分泌代謝科専門医研修ガイドブック, 診断と治療社, 2018. 《神経系》 9.「認知症疾患診療ガイドライン」作成委員会編, 認知症疾患診療ガイドライン 2017, 医学書院, 2017. 10. 公益社団法人 日本看護協会編, 認知症ケアガイドブック, 照林社, 2016. 11. 精神症状・行動異常(BPSD)を示す認知症患者の初期対応の指針作成研究班, BPSD 初期対応ガイドライン.改訂版, ライフサイエンス, 2018. 《小児科》 12. 崎山弘編, 本田雅敬, 帰してはいけない小児外来患者, 医学書院, 2015. 13. 東京都立小児総合医療センター編, 帰してはいけない小児外来患者 2 子どもの症状別 診断へのアプローチ, 医学書院, 2018. 14. 一般社団法人日本小児アレルギー学会, 小児気管支喘息治療・管理ガイドライン 2017 《2019 年改訂版》, 協和企画, 2019. 15. 日本小児神経学会監修, 熱性けいれん診療ガイドライン 2015, 診断と治療社, 2015. 16. 日本川崎病学会, 川崎病関連情報. http://www.jskd.jp/info/index.htm., (2022.7.13.参照). 17. 公益社団法人日本小児科学会”子ども虐待診療の手引き”, 公益社団法人日本小児科学会, http://www.jpeds.or.jp/modules/guidelines/index.php?content_id=25, (2022.7.13.参照). 《産婦人科》 18. 医療情報科学研究所, 病気がみえる vol.9 婦人科・乳外科, メディックメディア, 2018. 19. 医療情報科学研究所, 病気がみえる vol.10 産科, メディックメディア, 2018. 《精神系》 20. 中井久夫, 山口直彦, 看護のための精神医学, 第 2 版, 医学書院, 2004. 21. 西丸四方, 西丸甫夫, やさしい精神医学, 南山堂, 2008. 22. 西丸甫夫, 西丸四方, 精神医学入門, 南山堂, 2006. 《運動器系, 感覚器系》 23. 坂本壮, 救急外来たがいま診断中, 中外医学社, 2015. 24. 坂本壮, 内科救急のオキテ, 医学書院, 2017. 《感染症》 25. 青木真, レジデントのための感染症診療マニュアル.第 3 版, 医学書院, 2015. 26. 菊池賢, 橋本正良監修ほか, 日本語版サンフォードガイド 2019(第 49 版), ライフサイエンス出版, 2019.	

備考	* e-ラーニングにおける講義は、各自のパソコンで、自宅等で視聴して差し支えない。 * 質問事項がある場合は、全日病 S-QUE が提供する掲示板を参照、あるいは指導者まで連絡、適宜指導を受ける。 * 指導者は、インターネットを通じて受講生の履修状況、設問の回答内容を確認し、必要に応じて指導、質疑に対する応答を行う(祝祭日を除く)。 * 1回以上レポートの提出を行い、指導者から添削指導を受ける。レポートの内容は学修進度に応じて履修開始後、連絡される。 * 演習は、講義室に集合し、全日病 S-QUE が提供する教材に沿って行う。 * 科目修了試験(筆記試験)は、各時間終了後に行われる確認テストを参考に出題し、指導者の監督の下、本人確認を行った上で、講義室で集合して行う。 * 指導者は、必要に応じて受講者の理解を面接等で確認し、理解が不十分と判断された場合は、臨時の講義を行う。講義の場所は、講義室とする。
----	--

科目名	疾病・臨床病態概論:状況別		時間数	11 時間(実時間) 15時間(みなし時間)	
指導者	平田 修司、窪川 佳世、藤原 麻由礼				
ねらい	1)状況に応じた臨床診断・治療(救急医療、在宅医療等)を理解する。				
到達目標	1)状況に応じた臨床診断・治療(救急医学、在宅医療等)を理解する。 2)臨床診断プロセスに必要な思考過程を身につける。				
単 元		時間	講義形態	講師	指導者
Ⅰ. 救急医療の臨床診断・治療の特性と演習					平田 窪川 藤原
1. 特性(1)		1	講義	薬師寺	
2. 特性(2)		1	講義	薬師寺	
3. 特性(3)		1	講義	薬師寺	
4. 救急医療の臨床診断・治療の演習		1	演習	薬師寺	
Ⅱ. 在宅医療の臨床診断・治療の特性と演習					
1. 特性(1)		1	講義	片岡	
2. 特性(2)		1	講義	片岡	
3. 特性(3)		1	講義	片岡	
4. 特性(4)		1	講義	西山	
5. 特性(5)		1	講義	内田	
6. 在宅医療の臨床診断・治療の演習		1	演習	西山	
科目修了試験		1	試験		
評価方法	講義:e-ラーニングの受講及び講義確認テスト				
	演習:ペーパーシミュレーションによる演習の評価				
	試験:e-ラーニング上で科目修了試験を実施				
研修内訳	講義(8 時間)	視聴時間 45 分+講義確認テスト 15 分			
	演習(2 時間)	視聴時間(イントロ)10 分+グループワーク 30 分+視聴時間(解説)20 分 ※演習は e-ラーニング教材を活用して指定研修機関で行う			
	試験(1 時間)	科目修了試験 60 分			
参考図書	※全日病 S-QUE 提供の講義資料をダウンロード 1. American Heart Association(アメリカ心臓協会), ACLS プロバイダーマニュアル AHA ガイドライン 2015 準拠, シナジー, 2017. 2. 日本救急医学会監修, 救急診療指針.改訂第 5 版, へるす出版, 2018. 3. 日本臨床救急医学会編, 日本救急看護学会監修, 外傷初期看護ガイドライン JNTEC, 改訂第4版, へるす出版, 2018.				

備考	* e-ラーニングにおける講義は、各自のパソコンで、自宅等で視聴して差し支えない。 * 質問事項がある場合は、全日病 S-QUE が提供する掲示板を参照、あるいは指導者まで連絡、適宜指導を受ける。 * 指導者は、インターネットを通じて受講生の履修状況、設問の回答内容を確認し、必要に応じて指導、質疑に対する応答を行う(祝祭日を除く)。 * 1回以上レポートの提出を行い、指導者から添削指導を受ける。レポートの内容は学修進度に応じて履修開始後、連絡される。 * 演習は、講義室に集合し、全日病 S-QUE が提供する教材に沿って行う。 * 科目修了試験(筆記試験)は、各時間終了後に行われる確認テストを参考に出題し、指導者の監督の下、本人確認を行った上で、講義室で集合して行う。 * 指導者は、必要に応じて受講者の理解を面接等で確認し、理解が不十分と判断された場合は、臨時の講義を行う。講義の場所は、講義室とする。
----	--

科目名	医療安全学:医療倫理		時間数	11 時間(実時間) 15時間(みなし時間)	
指導者	平田 修司、窪川 佳世、藤原 麻由礼				
ねらい	1) 実践の場において、対象の人権擁護・知る権利・自律性(自己決定)を尊重した看護を提供するため、医療倫理についての理解を深め、実践活動にどのように反映できるか考察する。				
到達目標	1) 特定行為実践に関する医療倫理、医療管理、医療安全、ケアの質保証(Quality Care Assurance)を学ぶ。特定行為を実践するための患者の安全・安心の保証や、多職種協働を推進するための課題と方策を理解する。				
単 元		時間	講義形態	講師	指導者
1. 生命倫理・医療倫理の原則		1	講義	平田 窪川 藤原	
2. 生命倫理、医療倫理の各理論		1	講義		
3. 特定行為と患者の権利・医療安全		1	講義		
4. 世界の患者の権利に関する諸宣言－権利・義務から パートナーシップへ		1	講義		
5. 研究倫理と特定行為		1	講義		
6. 医療倫理問題各論と事例検討		1	講義		
7. 演習:医行為・医療ミスに関する倫理的諸問題を判 例から分析する		1	演習		
8. 演習:安全と医療倫理に関する事例検討:症例検討 シートを活用したケース分析		1	演習		
9. 特定行為実践における倫理的側面		1	講義		
10. 演習:臨床場面における倫理問題の検討		1	演習		
科目修了試験		1	試験		
評価方法	講義:e-ラーニングの受講及び講義確認テスト				
	演習:ペーパーシミュレーションによる演習の評価				
	試験:e-ラーニング上で科目修了試験を実施				
研修内訳	講義(7 時間)	視聴時間 45 分+講義確認テスト 15 分			
	演習(3 時間)	各スケジュールに準じる			
	試験(1 時間)	科目修了試験 60 分			
参考図書	※全日病 S-QUE 提供の講義資料をダウンロード 1. 宮坂道夫, 医療倫理学の方法 第 3 版: 原則・ナラティブ・手順, 医学書院, 2016. 2. 宮坂道夫ほか, 看護倫理 第 2 版(系統看護学講座 別巻), 医学書院, 2018.				
備考	* e-ラーニングにおける講義は、各自のパソコンで、自宅等で視聴して差し支えない。 * 質問事項がある場合は、全日病 S-QUE が提供する掲示板を参照、あるいは指導者まで連絡、適宜指導を受ける。 * 指導者は、インターネットを通じて受講生の履修状況、設問の回答内容を確認し、必要に応じて指導、質疑に対する応答を行う(祝祭日を除く)。				

	* 1回以上レポートの提出を行い、指導者から添削指導を受ける。レポートの内容は学修進度に応じて履修開始後、連絡される。 * 演習は、講義室に集合し、全日病 S-QUE が提供する教材に沿って行う。 * 科目修了試験(筆記試験)は、各時間終了後に行われる確認テストを参考に出題し、指導者の監督の下、本人確認を行った上で、講義室で集合して行う。 * 指導者は、必要に応じて受講者の理解を面接等で確認し、理解が不十分と判断された場合は、臨時の講義を行う。講義の場所は、講義室とする。
--	---

科目名	医療安全学:医療安全管理		時間数	12 時間(実時間) 15時間(みなし時間)	
指導者	平田 修司、窪川 佳世、藤原 麻由礼				
ねらい	1) 医療現場における安全管理をめぐる取り組みの経緯、医療事故発生のメカニズムについて理解する。また、実践の場において、看護職者及び他職種との連携を図り、医療事故を防止するための情報収集・分析・対策立案・評価・フィードバックを実践する能力を習得する。 2) 提供するケアの質保証について理解する。				
到達目標	1) 特定行為実践に関する医療倫理、医療管理、医療安全、ケアの質保証 (Quality Care Assurance)を学ぶ。特定行為を実践するための患者の安全・安心の保証や、多職種協働を推進するための課題と方策を理解する。				
単 元		時間	講義形態	講師	指導者
Ⅰ. 特定行為実践に関連する医療管理					平田 窪川 藤原
1. 特定行為における医療マネジメント		1	講義	松村	
2. リスクマネジメントと法規制		1	講義	北野	
3. 特定行為における診療報酬と医療安全		1	講義	日下	
Ⅱ. 特定行為実践に関連する医療安全					
1. 特定行為における組織と医療安全		1	講義	松村	
2. 特定行為における個人と医療安全		1	講義	松村	
3. 特定行為における患者・家族と医療安全		1	講義	松村	
Ⅲ. 特定行為実践に関連するケアの質保証					
1. 特定行為におけるケアの質保証～医療安全との関連		1	講義	長尾	
2. 特定行為におけるケアの質保証～医療訴訟との関連		1	講義	北野	
3. 特定行為におけるケアの質保証～ケアと医行為との関連		1	講義	竹之内	
4. 演習:ケアの質保証に関する判例を分析する		1	演習	北野	
5. 特定行為実践に関連する医療安全の実習		1	実習	池田	
科目修了試験		1	試験		
評価方法	講義:e-ラーニングの受講及び講義確認テスト				
	演習:ペーパーシミュレーションによる演習の評価				
	実習:ロールプレイによる実習の観察評価				
	試験:e-ラーニング上で科目修了試験を実施				
研修内訳	講義(9 時間)	視聴時間 45 分+講義確認テスト 15 分			
	演習(1 時間)	各スケジュールに準じる			
	実習(1 時間)	各スケジュールに準じる			
	試験(1 時間)	科目修了試験 60 分			

参考図書	※全日病 S-QUE 提供の講義資料をダウンロード 1. 米国医療の質委員会 医学研究所, 人は誰でも間違えるーより安全な医療システムを目指して, 日本評論社, 2000. 2. ジェームズ リーズンほか, -起こるべくして起こる事故からの脱出, 日科技連出版社, 1999. 3. 公益社団法人 日本看護協会“医療安全推進のための標準テキスト”, 公益社団法人 日本看護協会. http://www.nurse.or.jp/nursing/practice/anzen/pdf/text.pdf, (2022.7.13.参照). 4. 小松原明哲, 安全人間工学の理論と技術ヒューマンエラーの防止と現場力の向上, 丸善出版, 2016. 5. シドニー デッカー・ヒューマンエラーを理解するー実務者のためのフィールドガイド, 海文堂出版, 2010. 6. 松村由美, 医療安全学(看護師特定行為研修共通科目テキストブック), メディカルレビュー社, 2018. 7. エリック・ホルナゲル, ヒューマンファクターと事故防止-“当たり前”の重なりが事故を起こす, 海文堂出版, 2006. 8. 公益社団法人 日本看護協会. “看護業務基準(2016 年改訂版)”, 公益社団法人 日本看護協会. https://www.nurse.or.jp/nursing/practice/kijyun/index.html, (2022.7.13.参照). 9. 井部俊子, 看護管理学習テキスト第 2 巻看護サービスの質管理 2019 年版. 第 3 版, 日本看護協会出版会, 2019. 10. 医療安全対策検討会議, “医療安全推進総合対策会議(平成 14 年 4 月 17 日)報告書, 医療安全推進総合対策~医療事故を未然に防止するために~”, 厚生労働省. https://www.mhlw.go.jp/topics/2001/0110/tp1030-1y.html, (2022.7.13.参照) 11. 医療の質用語事典編集委員会, 医療の質用語辞典, 日本規格協会, 2005. 12. リン・ドナルド, 実像のナイチンゲール, 現代社, 2015. 13. 李啓充, アメリカ医療の光と影-医療過誤防止からマネジドケアまで, 医学書院, 2000. 14. Avedis Donabedian. Evaluating the Quality of Medical Care. Wiley on behalf of Milbank Memorial Fund, 1966. 15. 米国医療の質委員会 医学研究所.医療の質-谷間を越えて 21 世紀システムへ,2002. 16. 井部俊子ほか, アウトカムの測定ー患者満足とケアの質指標(看護学名著シリーズ),エルゼビア・ジャパン, 2006. 17. アン・W・ワジナー. アウトカム・マネジメント-科学的ヘルスケア改善システムの臨床実践への応用, 日本看護協会出版会, 2003. 18. 若松義人. 最強の現場をつくり上げる! トヨタ方式「改善」の進め方.PHP ビジネス新書, 2007.
備考	* e-ラーニングにおける講義は、各自のパソコンで、自宅等で視聴して差し支えない。 * 質問事項がある場合は、全日病 S-QUE が提供する掲示板を参照、あるいは指導者まで連絡、適宜指導を受ける。 * 指導者は、インターネットを通じて受講生の履修状況、設問の回答内容を確認し、必要に応じて指導、質疑に対する応答を行う(祝祭日を除く)。 * 1 回以上レポートの提出を行い、指導者から添削指導を受ける。レポートの内容は学修進度に応じて履修開始後、連絡される。 * 演習は、講義室に集合し、全日病 S-QUE が提供する教材に沿って行う。 * 科目修了試験(筆記試験)は、各時間終了後に行われる確認テストを参考に出題し、指導者の監督の下、本人確認を行った上で、講義室で集合して行う。 * 指導者は、必要に応じて受講者の理解を面接等で確認し、理解が不十分と判断された場合は、臨時の講義を行う。講義の場所は、講義室とする。

科目名	チーム医療論(特定行為実践)	時間数	11 時間(実時間) 15時間(みなし時間)		
指導者	平田 修司、窪川 佳世、藤原 麻由礼				
ねらい	1) 質の高い医療・看護の効果的・効率的な提供に向けたチーム医療の推進について考察する。また、多職種協働の課題及び集団や組織の目標・課題を達成する上で必要なリーダーシップについて理解する。				
到達目標	多職種協働実践(Inter Professional Work (IPW))(他職種との事例検討等の演習を含む)の知識と実践能力を身につける。				
単 元		時間	講義形態	講師	指導者
1. チーム医療の理論～チーム医療を実践するために知っておくべきこと		1	講義	山下	平田 窪川 藤原
2. チーム医療の事例検討～チームとしての最大を発揮する		1	講義	山下	
3. チーム医療の事例検討～チームとしての最大を発揮する演習		1	演習	山下	
4. コンサルテーションの方法(1)		1	講義	山下	
5. コンサルテーションの方法(2)		1	講義	山下	
6. 多職種協働の課題 ～ 多職種との円滑な協働のための マネジメント		1	講義	木澤	
7. チーム医療の実習(1)		1	実習	井上・辻本	
8. チーム医療の実習(2)		1	実習	井上・辻本	
9. チーム医療の演習(実習の振り返り)(1)		1	演習	井上・辻本	
10. チーム医療の演習(実習の振り返り)(2)		1	演習	井上・辻本	
科目修了試験		1	試験		
評価方法	講義:e-ラーニングの受講及び講義確認テスト				
	演習:ペーパーシミュレーションによる演習の評価				
	実習:ロールプレイによる実習の観察評価				
	試験:e-ラーニング上で科目修了試験を実施				
研修内訳	講義(5 時間)	視聴時間 45 分+講義確認テスト 15 分			
	演習(3 時間)	各スケジュールに準じる			
	実習(2 時間)	各スケジュールに準じる			
	試験(1 時間)	科目修了試験 60 分			

参考図書	※全日病 S-QUE 提供の講義資料をダウンロード 1. 篠田道子, 多職種連携を高める チームマネジメントの知識とスキル, 医学書院, 2011. 2. 特定非営利活動法人 日本緩和医療学会 専門的・横断的緩和ケア推進委員会, ”緩和ケアチーム活動の手引き” 第2版, http://www.jspm.ne.jp/active/pdf/active_guidelines.pdf, (2022.7.13. 参照) 3. ジョエル・ピーターソン, デイビッド・A・カプラン, 田辺希久子訳, 信頼の原則ー最高の組織をつくる 10 のルール. ダイヤモンド社, 2017. 4. 猪原健弘, 合意形成学, 勁草書房, 2011. 5. ピーター・F・ドラッカー, 上田 惇生訳, ドラッカー名著集 13 マネジメントー課題、責任、実践. ダイヤモンド社, 2008. 6. スティーブン P. ロビンズ, デービッド A. デイチェンゾほか, マネジメント入門ーグローバル経営のための理論と実践, ダイヤモンド社, 2014
備考	* e-ラーニングにおける講義は、各自のパソコンで、自宅等で視聴して差し支えない。 * 質問事項がある場合は、全日病 S-QUE が提供する掲示板を参照、あるいは指導者まで連絡、適宜指導を受ける。 * 指導者は、インターネットを通じて受講生の履修状況、設問の回答内容を確認し、必要に応じて指導、質疑に対する応答を行う(祝祭日を除く)。 * 1 回以上レポートの提出を行い、指導者から添削指導を受ける。レポートの内容は学修進度に応じて履修開始後、連絡される。 * 演習は、講義室に集合し、全日病 S-QUE が提供する教材に沿って行う。 * 科目修了試験(筆記試験)は、各時間終了後に行われる確認テストを参考に出題し、指導者の監督の下、本人確認を行った上で、講義室で集合して行う。 * 指導者は、必要に応じて受講者の理解を面接等で確認し、理解が不十分と判断された場合は、臨時の講義を行う。講義の場所は、講義室とする。

科目名	特定行為実践	時間数	12 時間(実時間) 15時間(みなし時間)		
指導者	平田 修司、窪川 佳世、藤原 麻由礼				
ねらい	1) 特定行為実践のための関係法規を理解する。特定行為の実践に向け、根拠に基づいた手順書を医師、歯科医師等とともに作成し、実践後に再評価するプロセスについて理解する。また、特定行為の実践におけるアセスメント、仮説検証、意思決定、検査・診断過程を理解する。				
到達目標	1) 特定行為関連法規について理解し応用できる。インフォームドコンセントの歴史について理解し、応用できる。 2) 手順書を医師、歯科医師等とともに作成し、実践後手順を評価し見直すプロセスを習得する。				
単 元		時間	講義形態	講師	指導者
Ⅰ. 特定行為実践のための関連法規、意思決定支援を学ぶ 1. 特定行為関連法規 看護師特定行為研修の実際・モデルチェンジ 2. 特定行為実践に関連する患者への説明と意思決定支援の理論 3. 特定行為実践に関連する患者への説明と意思決定支援の演習 4. 特定行為実践に関連する患者への説明と意思決定支援の実習 5. 特定行為実践に関連する患者への説明と意思決定支援の演習(実習の振り返り) Ⅱ. 根拠に基づいて手順書を医師、歯科医師等とともに作成し、実践後、手順書を評価し、見直すプロセスについて学ぶ 1. 手順書の位置づけ 2. 手順書の作成演習 ペーパーシミュレーションによる演習 3. 手順書の評価と改良 4. 実習1 5. 実習2 6. 実習3		1	講義	神野	平田 窪川 藤原
		1	講義	竹之内	
		1	演習	竹之内	
		1	実習	辻本	
		1	演習	辻本	
		1	講義	江村	
		1	演習	江村	
		1	講義	江村	
		1	実習	江村	
		1	実習	江村	
科目修了試験		1	試験		
評価方法	講義:e-ラーニングの受講及び講義確認テスト				
	演習:ペーパーシミュレーションによる演習の評価				

	実習:ロールプレイによる実習の観察評価	
	試験:e-ラーニング上で科目修了試験を実施	
研修内訳	講義(4 時間)	視聴時間 45 分 + 講義確認テスト 15 分
	演習(3 時間)	各スケジュールに準じる
	実習(4 時間)	各スケジュールに準じる
	試験(1 時間)	科目修了試験 60 分
参考図書	※全日病 S-QUE 提供の講義資料をダウンロード 1. 加藤済仁, 蒔田 覚, [新版]看護師の注意義務と責任-Q&A と事故事例の解説, 新日本法規出版株式会社, 2018. 2. 厚生労働省, ”特定行為に係る看護師の研修制度リーフレット「特定行為に関する看護師の研修制度が始まります」”, 厚生労働省. https://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-10800000-Iseikyoku/0000128788.pdf , (2022.7.13.参照). 3. 公益社団法人 全日本病院協会, “厚生労働省平成 27 年度看護職員確保対策特別事業「特定行為に係る手順書例集作成事業」特定行為に係る手順書例集” https://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisaku.jouhou-10800000-Iseikyoku/0000112464.pdf , (2022.7.13.参照).	
備考	* e-ラーニングにおける講義は、各自のパソコンで、自宅等で視聴して差し支えない。 * 質問事項がある場合は、全日病 S-QUE が提供する掲示板を参照、あるいは指導者まで連絡、適宜指導を受ける。 * 指導者は、インターネットを通じて受講生の履修状況、設問の回答内容を確認し、必要に応じて指導、質疑に対する応答を行う(祝祭日を除く)。 * 1回以上レポートの提出を行い、指導者から添削指導を受ける。レポートの内容は学修進度に応じて履修開始後、連絡される。 * 演習は、講義室に集合し、全日病 S-QUE が提供する教材に沿って行う。 * 科目修了試験(筆記試験)は、各時間終了後に行われる確認テストを参考に出題し、指導者の監督の下、本人確認を行った上で、講義室で集合して行う。 * 指導者は、必要に応じて受講者の理解を面接等で確認し、理解が不十分と判断された場合は、臨時の講義を行う。講義の場所は、講義室とする。	